

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4091500316		
法人名	医療法人 静光園 第二病院		
事業所名	高齢者グループホーム やまぼうし		
所在地 (電話番号)	福岡県大牟田市櫛野3260-102 (電話) 0944-53-7788		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年8月27日	評価確定日	平成21年10月27日

【情報提供票より】(平成21年8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 9 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 9.6 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 ~ 49,000円	その他の経費(月額)	水光熱費(18,900円/月)
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (8月20日現在)

利用者人数	9 名	男性 4 名	女性 5 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	1 名
年齢	平均 85.8 歳	最低 77 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人静光園第二病院・おおの歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな住宅地の外れに、やまぶき色の壁の和風モダンな外観を持つ「やまぼうし」はある。法人として医療・福祉事業を多様に展開しており、地域の中で、医療・保健・福祉の一体的な運営がなされている。高台の地形を巧く利用して建てられているホームには、併設する小規模多機能ホームまで続くウッドデッキがあり、四季折々に変化する山々を眺めることができ、開放感にあふれている。家庭的で温かい雰囲気のあるリビングでは、入居者一人ひとりの方々がそれぞれの場所でくつろぎ、その表情の豊かさはとても印象的であった。職員は私服勤務となっており、入居者本位の日々の暮らしを「黒子」となり支えながら、ノーマリゼーションの実践に努めている。開設して2年目をむかえばかりであり、今後地域の方々やボランティアの方々、また様々なネットワークとの連携により、更なる充実が期待されるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回がはじめての外部評価となる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を説明し、職員全員で自己評価に取り組んでいる。評価の機会を、日々のケアの見直しや確認として活かしていこうとする真摯な姿勢が印象的であった。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	併設する小規模多機能ホームとの合同開催により、概ね2・3ヶ月に1回開催されている。状況報告や行事の案内・報告が行なわれている。運営推進会議への幅広い立場の方々の出席により、地域に開かれたサービスとして質の確保や向上に活かしていくことが求められています。入居者・家族・職員・近隣住民等の積極的な参加により、率直な活発な意見交換を行い、実践的な取り組みにつなげていけるよう働きかけていくことが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族の来訪時には、日常の様子や健康管理について伝えている。遠方の家族にはメールや担当者の手紙により、近況報告を行なっている。季節ごとに「ひばりが丘通信」を発行し、日々の暮らしの状況や行事報告を写真とともに掲載している。家族が意見を言い難いという事を理解しており、コミュニケーションの機会を大切にしながら、関係づくりに努めている。家族会の立ち上げを模索している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会に加入しており、リサイクル活動や地域行事に入居者とともに参加し、交流を育んでいる。地域の大蛇祭りのホームへの巡回もある。ホームの畑では近隣住民の助言・協力により、野菜を育てており、また農作物が届けられる機会も増えてきた。地域交流室や徘徊模擬訓練等、地域に根付いた活動・交流が育まれており、情報発信にも取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	医療法人としての理念及び法人福祉部の理念があり、ともに地域との関係性についてふれられている。事業所としても職員全員で創られた独自の理念があり、具体的な5項目の内容となっている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	独自の理念作成にあたり、あえて管理者は積極的にかかわらずに、職員間のグループワークにより作成されている。毎月の定例会では、理念に基づいたケアについての確認が行なわれている。今後毎年、理念の見直しを行なう予定としている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	自治会に加入しており、リサイクル活動や地域行事に入居者とともに参加し、交流を育んでいる。地域の大蛇祭りのホームへの巡回もある。ホームの畑では近隣住民の助言・協力により、野菜を育てており、また農作物が届けられる機会も増えてきた。地域交流室や徘徊模擬訓練等、地域に根付いた活動・交流が育まれており、情報発信にも取り組んでいる。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	今回が初めての外部評価となる。評価の意義を説明し、職員全員で自己評価に取り組んでいる。評価の機会を、日々のケアの見直しや確認として活かしていこうとする真摯な姿勢がとても印象的であり、目指しているケアの質の高さが伝わってくる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	併設する小規模多機能ホームとの合同開催により、概ね2・3ヶ月に1回開催されている。状況報告や行事の案内・報告が行なわれている。		運営推進会議への幅広い立場の方々の出席により、地域に開かれたサービスとして、質の確保や向上に活かしていくことが求められています。入居者・家族・職員・近隣住民等の積極的な参加により、率直な意見交換を行い、実践的な取り組みにつなげていけるよう働きかけていくことが望まれる。
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

高齢者グループホーム やまぼうし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	大牟田市との連携により、職員実習の受け入れや地域交流室を活用した委託事業(歯にかみ教室・よかば～い体操教室等)が行なわれている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	成年後見制度や日常生活自立支援事業についての外部研修に参加し、伝達研修により共有が図られている。今後は更に全職員の理解を深め、必要となった場合に活用できるよう、学ぶ機会の確保に努めていきたいと考えている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	家族の来訪時には、日常の様子や健康管理について伝えている。遠方の家族にはメールや担当者の手紙により、近況報告を行なっている。季節ごとに「ひばりが丘通信」を発行し、日々の暮らしの状況や行事報告を写真とともに掲載している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	家族が意見を言い難いという事を理解しており、コミュニケーションの機会を大切にしながら、関係づくりに努めている。家族会の立ち上げを模索している。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	併設する小規模多機能ホームとの間で、多少の異動が行われているが最小限となるよう努めている。日頃から交流・馴染みの関係づくりが行なわれており、ふれあう機会も多い。毎日のミーティングも合同で行なっているため、情報の共有も図られており、サポート体制の構築に努めている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	採用にあたっては、年齢や性別による排除は行なっていない。人柄や学ぶ姿勢、認知症へ理解のある方を重視している。将来の目標を設定し、その能力が発揮できるよう配慮している。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

高齢者グループホーム やまぼうし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	法人の理念として人権尊重を掲げ、法人全体での人権教育に取り組んでいる。また職員が心理的に余裕をもって入居者とのかかわりが持てるよう、法人の臨床心理士によるメンタルヘルスチェックが行なわれている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	法人として教育委員会が設置されており、毎月の研修会への全員参加に努めている。内・外の研修に参加した際には、伝達研修を行い、共有を図っている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	認知症ケア研究会の主催する研修に参加している。入居者とともに相互訪問等の交流も行われており、今後はグループホーム協議会への入会を予定している。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前の訪問にて話し合い及び情報収集を充分に行い、その後段階的に体験利用等を実施し、納得して安心してサービスが開始できるよう柔軟に支援している。併設する小規模多機能ホームを活用して、馴染みの関係づくりが行なわれる場合もある。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	日々の暮らしの中で、生活の知恵(調理方法等)を学ぶ機会も多く、必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。職員ヒアリングでは、若い職員より「入居者の方々に花嫁修業をさせていただいている」との素直な言葉があった。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

高齢者グループホーム やまぼうし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	センター方式を活用したアセスメントにより、本人・家族・関係者より生活暦等の情報を収集し、把握に努めている。日々の暮らしの中でも、担当スタッフが情報収集を行い、計画作成につなげるよう取り組んでいる。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族の意向を大切にしながら、職員や関係者の意見を集約・検討し介護計画を作成している。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	3ヶ月に1回の見直しを行なっている。心身等の状況の変化がある場合には、随時見直している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	地域交流ひろば「ひばりが丘」を活用して、地域住民との交流が行なわれている。併設する小規模多機能ホームを利用して、馴染みの関係・環境の中でのスムーズな住み替えを柔軟に支援している。法人として多様な福祉事業を展開しており、そのスケールメリットを活かした柔軟な支援が行われている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人・家族の意向による、これまでのかかりつけ医を大切にしている。定期的な往診・受診があり、情報の交換・共有を図り、健康管理につなげている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

高齢者グループホーム やまぼうし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	「重度化した入居者の対応について」において指針を示し、家族に同意を得ている。ターミナル支援のための部屋が確保されているが、現状としては職員の意識や知識において準備段階との認識がある。今後支援が必要となった場合に、入居者・家族の意向に寄り添うためにも、職員・家族・関係者の連携体制を整えていきたいと考えている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	事業所独自の理念の中に、「まごころ込めた受け答え」「敬う気持ち大切に」と掲げ、また法人理念としても尊厳と権利を大切にすることを謳っており、理念の共有・実践がプライバシーの確保にも繋がっている。個人情報の取り扱いについては、法令の遵守に努め、鍵付きのロッカーにて管理・保管している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	おおまかな一日の流れはあるが、入居者一人ひとりの生活習慣や「その日」の希望を大切にし、柔軟な対応に努めている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	入居者・職員が、それぞれの場所で同じ食事を楽しむ姿があった。調理担当職員により、入居者の嗜好にも配慮しながら「気配り・心配り」の調理がなされている。晩酌を楽しむ方もいる。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	毎日の入浴に対応している。入居者一人ひとりの生活習慣にあわせて、無理強いとにならないよう柔軟に支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

高齢者グループホーム やまぼうし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	毎日の食材の買い物や調理準備、後片付けや洗濯物をたたむなど、役割りの場面づくりが行なわれている。ボランティア		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	入居者の外出への意思表示を、大切に受け止め支援につなげている。ホーム周辺の散歩や買い物、ドライブ等に出かけている。家族や友人との関係性を大切に、個別の外出等にも柔軟に対応している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中は鍵をかけないケアを実践している。所在確認や一人ひとりの状況の把握に努め、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	併設する小規模多機能ホームとの合同で、災害対策を行なっている。地震・水害対策について、現在マニュアルを作成中である。地域への働きかけについては、今後の運営推進会議等において働きかけを予定している。会議を活用し、災害時における近隣住民との具体的な協力・連絡体制の構築に期待したい。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食事摂取量をチェックし、法人の管理栄養士による指導を、週1回受けている。必要な方には、水分摂取量についてもチェックしている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

高齢者グループホーム やまぼうし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	ソファや和室等、くつろげる場所が確保されており、リビングの一角には「独り」を楽しめる場所もある。各所に施された障子・吹き抜けの天窓・中庭などから優しい光が差し込み、木の質感も多様され温かい雰囲気がある。併設する小規模多機能ホームまで、30メートル以上続くウッドデッキからの眺めは素晴らしく、四季折々の山々の彩りを楽しむことができる。対面式のキッチンからは、調理の際の音や匂いなど、生活感が伝わってくる。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	入居者の生活スタイルや好みにあわせて、和・洋の居室がある。水屋や机など、使い慣れた物が持ち込まれており、個性ある部屋づくりが行われている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			